

地域への愛着を育み、医師を確保する未来

杏林大学 医学部医学科5年

石ヶ森 威彬

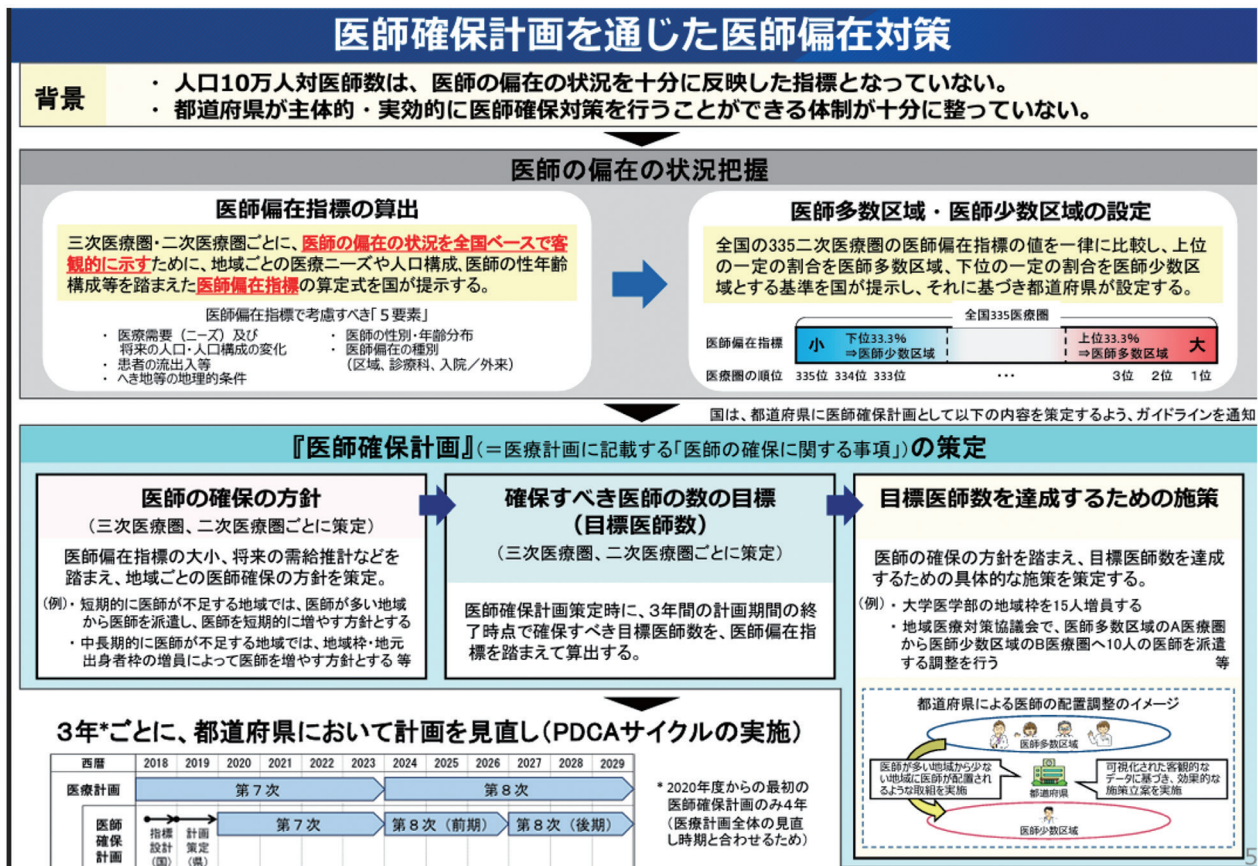
医療従事者は、地域住民の幸福と健康を保証し、地域社会にとって不可欠な存在である。特に医師は他の医療従事者に比べ、教育コストも高い上に、全国的な人数も少なく、地域によっては希少な存在になりうる。そういった状況の中、診療科と地域における医師の偏在がこれまで問題視されてきた。日本では医師が、専門とする科も、働く地域も自由に選ぶことを許され、激しい競争に晒されて志望している方専門医資格を取れないことも少ない。そんななか厚生労働省は医師確保計画を策定し、医師偏在解決を模索している。この計画では、大学医学部の地域枠の増員や、地域医療対策協議会が医師多数区域である医療圏から医師少数区域の医療圏への医師の派遣を調整することを想定している(図1)¹⁾。私は医師に対して、自身のゆかりのある地域へ愛着を育ませることで医師を確保することも選択肢として必要であると考えている。

現在、我が国では地域枠入学制度が存在し、例えば東京では、3つの大学に東京都地域枠選抜制度が設けられ、有望な学生に対し学費を負担し多額の奨学金を提供している。その代わりとして、奨学生は卒業後9年間、東京都内で医師が不足している小児医療、周産期医療、救急医療、へき地医療の4つの指定領域のいずれかを選択し、勤務することと規定されている。この取り組みにより、本来学費面で医学部に入学できなかった層が医師になることができるだけでなく、医師の県外流出も防ぐことができる。事実、医学

部卒業後の医師定着割合を比較すると、地域枠以外の医師の地域定着割合は低いというデータも出ており、この制度は医師偏在を解決する1つの方法となっている。

埼玉県川口市出身の私は、幸運にも東京都地域枠選抜を利用し医学部に入学することができ、この寛大な奨学金のおかげで、私は学費の負担なく医学を学ぶこともできており、この制度には大変感謝をしている。環境に恵まれず、本来医師になりたくてもなることができなかつた人でも、一定の努力をすれば医師になることができ、それだけでなく医師の人的リソースに恵まれない地域に医師を効果的に送り込むことで、医療資源を効率的に活用できる。これはまさに持続可能な医療を目指す上で必要不可欠な制度であろう。だがこの5年間の学生生活の中で、従事期間満了後に地域を離れはしないものの、本当は別の地域で、別の領域で医師をやりたい、という意見を耳にすることが多々あった。また先日、千葉県内のある医師会の理事会に参加させていただいた際も、その医師会の理事の間では、奨学金の使命を果たした後に医師が去っていくことが懸念として挙げられており、このような傾向は、持続可能な医療環境を構築する上で1つの大きな課題となっているのではないかと考えるようになった。これは常に医師が入れ替わることで、地域社会と医療従事者が永続的な関係を築くことができなくなってしまうからだ。私はこれらの話を耳にし、金銭的な要

図1



3年ごとに更新され、2023年度3月までに都道府県が第8次(前期)医療確保計画を策定・公表する予定。目標医師数達成に向けた施策の例として、地域枠の増員と医師の県を介した共有が組み込まれている。

因によりその地域に縛られていると考えている医師がいることを知った。2020年4月全日本医学生自治会連合が行った調査では、入学前と入学後の進路への心変わりなどを背景におよそ4人に1人の地域枠学生が特定地域での従事義務に対して否定的に捉えていることがわかった。これは割合にすると25%だが、約2万人いる地域枠利用者の医学生と、医師のうち5千人程度は従事義務に対する否定的な意見を持っていると考えられるⁱⁱ⁾。これに加えて入学した大学とは別の出身で、地域枠利用者でもない医師の35%から40%程度は臨床研修後、地域に定着しておらずⁱⁱⁱ⁾、また59名の地域枠制度利用者(東京都49名、千葉県4名、埼玉県2名、新潟県1名、長野県1名、岡山県1

名、徳島県1名、山口県3名)に対し行った調査では、「規定の従事期間を満了した後は、同じ都道府県内で医師を続けたいと考えているか」という質問に対し、65.0%が「はい」、0%が「いいえ」、35.0%が「未定」と回答した^{iv)}。このように地域に定着しない医師層が約35%いると考えれば、地域に定着するような取り組みを考えることで、より一層持続的な医療の提供に繋がるのではないだろうか。これは医師を「地域に配置をする」という概念ではなく、「地域へ統合する」という概念だと、私は捉えている。地域へ統合するとは、医師自身が地域へ溶け込むことを意味し、すなわち地域への愛着を育ませることである。ある地域への愛着は人間の主観的な幸福感を改善することが知られて

おり、現在多くの医師が自分を取り巻くシチュエーションから妥協点を探して働く場所を決める受動的な発想とは反対に、医師がその地域を心のどこかで愛し、自身の意思が周りに影響されることが少ない能動的な発想である。さて、医師会とは地域医療を担う医師の集団として、自治体と連携し医道の高揚、医学及び医術の発達並びに公衆衛生の向上を図り、社会福祉を増進すること^{v)}、地域住民に医療サービスを提供してきた。さらに、これまでの活動に留まらず、若い医師と地域社会とのつながりを育む上で、イベントやメンターシップ・プログラム、地域支援活動などを企画することにより、若手医師と地域社会との橋渡しとなり、持続的な医療を確立していくことが可能だ。そこで、医師会と若手医師とのコミュニケーション・プラットフォームの確立を行うことの重要性を唱えたい。医師会と若手医師が対話できるプラットフォームは、若手医師が直面する懸念、願望、課題を理解し、その対処に役立ち、コミュニケーションにより、医師自身がより一層地域への愛着と親近感を育むことができる環境づくりに役立つ。すなわち医師会の役割の再定義をすることが持続的な医療の実現に一役を担うのである。これは決して地域枠制度を否定するものではなく、地域枠制度のような経済的インセンティブを用いた医師確保も不可欠である上で、それを補完するものとして、地域とのつながりの重要性を強調する取り組みが必要であるのだ。指定された地域の歴史、文化、ニーズに触れるワークショップやオリエンテーションは、学生に帰属意識を育むことができ、地域とのつながりを強化することができる。過去にミュンスター工科大学で行われた、より効果的に帰属意識を育む方法に関する研究では、我々はより早い段階から重要なスキルを教えられ、実際に自分がその集団の和の中心にいるような振る舞いをさせられることで、具体的な今後のキャリアイメージ無意識に持つようになり、その集団に対する帰属意識が芽生えてくることがわかっている^{vi)}。すなわちメンターシップ、ピアグループ、あるいは地域社会へのイマージョンプログラムなど、若手医師のためのサポートシステムを構築することで、地域社会との結びつきを

強めながら、医師業務の中で様々な壁を乗り越える手助けをすることができるのだ。日本の医療システムが真に持続可能なものにするためには、医師を必要とする地域に単に医師を配置するだけではなく、この配置制度に加え、医療従事者と地域社会との真の結びつきを育むことが大切である。若手医師を地域社会に溶け込ませ、このような関係の重要性を認識することで、医師が単なる義務としてではなく、献身的にその地域に留まることができる。これは地域における持続可能な医療を実現するための課題と潜在的な解決策に光を当てるものである。個人的な経験や観察を通して、各都道府県に存在する地域枠制度や同様の奨学金制度、現在の医師の勤務地選定への思いを考え、若手医師とそれぞれの地域社会とのつながりを育む取り組みを推進することで、医師と地域がより深い関係性を育み、医師の偏在を真に解決できる日が来るのではないだろうか。

【文献】

- i) 「医師確保計画策定に向けたポイント」(厚生労働省) (<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001097794.pdf>) (2023年10月12日に利用)
- ii) 「地域枠・地域の意味確保に関する全国調査」(全日本医学生自治会連合) (<https://www.igakuren.jp/cms/wp-content/uploads/2020/04/%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E6%9E%A0%E3%83%BB%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%AE%E5%8C%BB%E5%B8%AB%E7%A2%BA%E4%BF%9D%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E5%85%A8%E5%9B%BD%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%80%80%E6%9C%80%E7%B5%82%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8-1.pdf>) (2023年10月12日に利用)
- iii) 「令和5年度以降の医師需給および地域枠設置の考え方について」(厚生労働省) (<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000695877.pdf>) (2023年10月12日に利用)

iv) 石ヶ森威彬；地域枠制度の規定に対するアンケート；本論文を執筆するにあたり、急遽10月に地域枠制度を利用している医師、医学生に対して実施したアンケート

v) 「日本医師会について」(日本医師会) (<https://www.med.or.jp/jma/>)

(2023年10月12日に利用)

vi) Sylvia Dempsey,Ruth VanceLee ;Professional Development Module in University:Building a sense of belonging for first-year students; Polytechnic University of Valencia Congress, Eighth International Conference on Higher Education Advances:14-05-2022 (<http://ocs.editorial.upv.es/index.php/HEAD/HEAd22/paper/view/14530>) (2023年10月12日に利用)